



Uターンで沖縄に帰り、 エンジニアコミュニティを 1人で立ち上げた話

沖縄エンジニアHUB 代表 伊礼

ハッカーズチャンプルー2026 ライトニングトーク 2026.10.12

自己紹介

東京で6年。今年、沖縄に帰ってきた



伊礼

沖縄エンジニアHUB 代表

2020年4月

社会人になると同時に上京

東京でエンジニアとして6年

2026年3月

沖縄にUターン

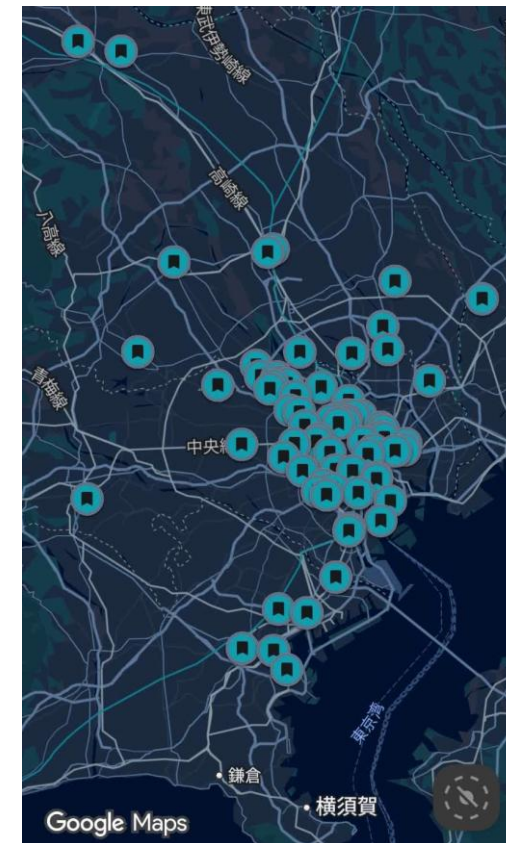
東京の会社に所属したまま、フルリモート

2026年5月

沖縄エンジニアHUBを発足

趣味

サウナ巡り。東京で80か所以上



保存したサウナ (Googleマップ)

① 立ち上げた背景

きっかけは、**小さいこと**でした

- connpass で検索したら、東京と比べて勉強会が少なかった
- 本業のほかに、収入の柱をつくりたかった
- 始めるだけなら、お金もかからない。アカウントを作っただけ

沖縄のエンジニアと関われる機会が増えるなら、自分にとって価値がある

① 何を解決するコミュニティか

東京にいた頃から強く感じていた、沖縄の給与の低さ

沖縄
436万円

東京
568万円

差
132万円

全国は 518万円。沖縄は全国と比べても **82万円** 低い

事業としてやるなら、誰かの課題を解決する必要がある → まず「何を解決するコミュニティか」から考えた

システムエンジニアの年収水準 | 出典：求人ボックス 給料ナビ（2026年9月2日更新・掲載求人から算出した値）

① 何を目指すコミュニティか

この課題に対して、何をを目指すか

目的はひとつ

エンジニアとしての価値を上げる

その結果として、収入が上がる

- 1人だけ稼げるようになって、構造は変わらない
- やっていること：勉強会／1on1／働き方・稼ぎ方の情報交換
- 給与の上げ方は自由：本業での昇進／転職／副業
- いま **24人**。草の根で、地道に増やしてきた
前職の同期に声をかける／勉強会で知り合った人を誘う／note・X で発信

AI活用は、効率化より「壁打ち」

よくあるイメージ

AI活用 = 効率化



私が一番価値を感じていること

何かするときは、必ず先に壁打ち

■ 運営をまるごと**1つのGitリポジトリ**に置いて、Claude Code で回す

例：第1回で、全体向けに副業の話をする枠を設けた → アンケートをAIとふりかえる

→ 「イベントは全員向け。収入の話は、興味がある人と個別に」

■ 決めたことを残す → 「**過去の決定に反します**」と止めてくれる

1人運営だからこそ、AIがストッパー役になってくれることに価値がある

意思決定は、AIにさせない

■ AIに頼むのは：思考の拡張／案出し／情報収集

■ 丸投げすると、期待と違うものが出来上がる

開発も、コミュニティも同じ

■ メンバーとの1on1も、AIに渡さない

③ 活動を通じて、実際に得たこと

まず自分自身が、実績を作れた

- 最初のメンバーが、一緒に仕事をしている社長につないでくれた
- 「コミュニティとして収入を上げることを掲げているなら、まず**自分が体現するのが一番説得力がある**。うちのチームで実績を作ってみないか」

業務委託で
月**10**万円

まず自分自身が、業務委託という形で、収入を上げる実績を作れた

④ 現状の課題

メンバー同士の、**横のつながりが無い**

- Discordで発信しているのは、運営の私だけ
- どう関わっていいか分からない状態にしている = **運営の責任**
- メンバーが求めていることを、まだ十分に聞けていない → **1on1を始めている**

場の雰囲気は、AIと私だけでは作れない。メンバーと一緒に作るもの

④ これから

自分が全部やるのではなく、メンバーと一緒につくる

- まず、メンバー同士が会話しやすい状態をつくる（継続的な勉強会・もくもく会）
- その先は、メンバーが**自分で企画して、実行する**。運営は補助
- 空いた分で、私がやること：「スキマ時間」で始められる仕事をつくる

世の中の依頼
フルタイム・1人月

ギャップ



メンバー（本業がある）
「スキマ時間」で小さく始めて、実績
を作る

短期の関わりではなく、**中長期で関わり続けられるコミュニティ**へ

少しでも興味を持った方、 まず、覗きに來てください。

合いそうなら、一緒にやりましょう。

参加費は無料。経験年数は問いません。ベテランも、初心者も歓迎

あとからでも、検索してホームページから参加できます



「沖縄 エンジニア コミュニティ」Bing での検索結果（2026年10月11日時点・1件目までを切り出し）



Discordに参加する

okinawa-engineer-hub.com